

令和3年度 中野区立中野第一小学校 経営計画

学校教育目標	心身ともに健康で知性と感性に富み, 自分も人も大切にする豊かな人間性を持ち, 時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生き, 社会に貢献できる児童を地域・保護者と連携して育てる。		
	考える子 思いやりのある子 元気な子		
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	1 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度を身に付け実践する子 2 基礎的・基本的な学力を確実に身に付け, 習得した知識・技能を活用できる子 3 運動に親しむとともに, 健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し, 健康で活力ある生活を営む子	目指す学校 (教師像を含む)	児童に 保護者に 地域に 教職員に わたしにプラス! 喜びを生み出す学校 教員一人一人のもてる資質・能力を十分発揮し, 授業力, 指導力を結集した学校の組織としての力を高め, 保護者・地域と共に愛され誇りにされ喜びを生み出す学校をつくり, 児童のよりよい成長を促す適切な支援を充実させた教育を実現する。
教育目標を達成するための基本方針	ア 豊かな人間性の育成 人権尊重の精神を基盤とし, 全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度や規範意識を育むと共に自尊感情や自己肯定感, 自己有用感を高める。学年間や異学年間(たてわり班)、地域の人々との交流活動や地域の人材を活用した教育活動等を通して, 道徳性や豊かな人間性, 人間関係形成力を培うとともに, 地域で学ぶ児童への一貫した成長支援・育成に取り組む。また, 学校いじめ防止基本方針に則り, スクールカウンセラー等との連携を密にしながら全教職員で年間を通して継続的にいじめ未然防止等に全力で取り組む。 イ 学力の向上 児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業と評価規準・評価計画による適正な評価・評定を実施し, 個に応じた指導や補充学習, 少人数・習熟度別指導等を通して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに, 言語活動や課題解決学習, 体験的な学習の一層の充実により思考力・判断力・表現力等を育成し活用する力を身に付けさせる。また, ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせ, 個別学習と対面学習を効果的に融合させて一人ひとりの児童・生徒の状況に応じた学びや主体的・対話的で深い学びを推進するとともに, 学びを人生や社会に生かそうとする姿勢や態度を身に付けさせていく。また, グローバル化が進展した社会の様々な場面で必要となる外国語によるコミュニケーション能力の向上に努める。 ウ 体力の向上と健康の保持増進 年間を通して体育朝会や外遊び, オリンピック・パラリンピック教育の推進に取り組むとともに体育の授業改善に努め, 日常的に運動に親しむ資質を育成して体力・運動能力の向上を図る。ESD(持続可能な開発のための教育)を推進し, 食育や防災教育の推進, 交通・安全指導の徹底により必要な知識等を習得させ健康で活力ある生活を営む実践力を育てる。また, 特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会の活動を一層活性化させ, 関係機関等との連携を取りながら, 個に応じた指導ときめ細やかな支援による児童の心身の健やかな成長を図る。 エ 保護者・地域との連携・協働 土曜授業公開の実施, 学校だよりやホームページ等とおして, よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を保護者や地域と共有・連携して教育を推進する。また, 保育園・幼稚園から小学校, 小学校から中学校への円滑な接続を図り, 連携を生かして生きる力を更に伸ばし育んでいくために, 近隣の保育園・幼稚園や小中連携3校の教職員が同じ方向性をもって取組み, 教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い, 一貫性のある継続的な指導を行うなどカリキュラム・マネジメントに努める。		

今年度の重点

A 重点目標		B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
1	【知(確かな学力)】 保幼との円滑な接続と小中9年間の学習の系統性を踏まえ, 小学校における基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。	家庭学習の習慣を確立するとともに, 主体的な学び方を身に付ける。	目標時間の家庭学習を行っている児童の割合を85%以上とする。
			図書とタブレットそれぞれの活用の良さを理解している児童を80%以上とする。
		児童の90%以上が学習に意欲的に取り組み, 通知表の「もう少し」を5%以下とする。	児童の90%以上が学習に意欲的に取り組み, 通知表の「もう少し」を5%以下とする。
2	【徳(豊かな人間性)】 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度, 実践する力を身に付ける。	生命や人権等を尊重する態度や規範意識を身に付ける。	「みんなのきまり」を守っている児童の割合を90%以上とする。うち, ◎を50%以上とする。
			いじめの早期発見, 早期対応を図り, 事案確認から1か月以内に解決する。
			自分を大切にする児童を90%以上, 友達を大切にする児童を95%以上とする。
			通常級・特別支援学級の交流が楽しいと感じる児童を80%以上とする。
3	【体(健康・体力)】 運動に親しむとともに健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し, 健康で活力ある生活を営む力を身に付ける。	運動に親しむ資質を育成し体力・運動能力を向上させる。	体を動かすことが楽しい児童の割合を90%以上とする。
		心身の健康について理解し, 楽しく明るい生活を営む態度を身に付ける。	健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。
		安全について理解し, 自ら安全に行動する力を身に付ける。	学年に応じたSOSの出し方を理解し, だれかに相談できる児童の割合を90%以上とする。 安全に気を付けて生活している児童の割合を90%以上, 自転車安全利用五則遵守を95%とする。
4	【学校における働き方改革】 教職員の心身の健康保持を図り, 心身共に充実して働き続けられる働き方を実現する。	教職員の働き方に係る意識改革を推進し, 働き方の改善に具体的に取組む。	時間外勤務の上限について月45時間, 年間360時間を目標とする。特例の場合においても区の条例施行規則を遵守する。
5	【保幼小中連携】 保育園・幼稚園から小学校, 小学校から中学校への円滑な接続を図り, 連携を生かして生きる力(豊かな心・学力・体力)を更に伸ばし育む。	教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い, 一貫性のある継続的な指導を行う	(自己肯定感について) 自信のあるところとないところを含め, 自分自身にだいたい満足している児童を75%以上とする。
			数学・算数, 英語・外国語について, 学力を向上させる取組を構築する。

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価			
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
1知 (確かな学力)	目標時間の家庭学習を行っている児童の割合を85%以上とする。	家庭と連携した家庭学習強化月間を実施する。年間をと おして学年の家庭学習目標 時間に沿った量の毎日の宿 題や自主学習について提示 する。	A	家庭学習指導を90%以上の日に実施した	A	目標時間達成の児童85%以上	A		B		家庭学習強化月間を5月と10月 に実施した。家庭で進んで学習 に取り組んでいる児童は、 83.5%(とても52.8%、だいたい 30.7%)である。	今後は、学習アプリMonoxerが 本格運用できることを活用する。 また、次年度は学習アプリの導入 や文部科学省CBTシステム (MEXCBT:メクビット)の活用を 検討する。	A	・ICT機器の活用は、これからの社会(すでに 現社会)で必要不可欠なのですが、同 時に、原体験・実体験とのバランスを頭 に入れてご指導いただけたらと なお、子どもたち にとって効果的だと思います。 ・充実しており感謝しております。
			B	同80%以上実施	B	同80%以上								
			C	同70%以上実施	C	同75%以上								
			D	同実施70%未満	D	同75%未満								
	図書とタブレットそれぞれの活用の良さを理解している児童を80%以上とする。	情報センターとしての学校図書館の機能整備と計画的・効果的な活用、図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施する。	A	図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施し児童にそれぞれの良さを指導した	A	理解している児童80%以上	B		B		本で調べる77.7%、インターネットで調べる88.3%である。 図書館指導員のカンファレンスと書籍の充実が課題である。	学習に必要な図書の増加を図る。また、カンファレンス用の用紙を開発する。 教員に図書とインターネットの調べ学習についての研修を実施する。	A	・全般的にコロナの異常な状態の中、良くがんばっていると思います。ご父兄にもう少し理解していただけたらと感じます。 ・どの教室でも子供たちは静かに授業を受けている。先生が声を張り上げることもなく、関係性ができていて、落ち着いて学習している。
			B	図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施した	B	理解している児童70%以上								
			C	学校図書館の活用計画を確実に実施した	C	理解している児童60%以上								
			D	学校図書館の活用計画の実実施があった	D	理解している児童60%未満								
	児童の90%以上が学習に意欲的に取り組み、通知表の「もう少し」を5%以下とする。	ICT機器等を効果的に活用し、個別学習と対面学習を効果的に融合した指導法改善に取り組む。	A	融合した指導法改善に取り組んだ	A	意欲的90%以上、もう少し5%以下	B		C		学習したことがよく分かり楽しく学習している86.1%である。 前期通知表の評価結果の「もう少し」は、1年生0.8%、2~6年生4.6%(2年6.1%、3年3.8%、4年6.5%、5年4.8%、6年4.4%)である。	特に2年と4年の国語・算数の個別指導と補充指導を工夫する。 友達とのかかわりに重点をおいた学習方法を実施していく。	A	・iPadが配布されたが、ICTを使った生活が当たり前になってきている。子供たちには操作が難しいとか分からないとか嫌いにならないで前向きに使ってほしい。
			B	形成的評価を大切にした指導と評価の一体化を行った	B	意欲的90%以上、もう少し8%以下								
			C	補助教材や教具の活用など合理的配慮を整備した	C	意欲的80%以上、もう少し8%以下								
			D	児童理解に基づいた授業づくりに取り組んだ	D	意欲的80%未満、もう少し8%以上								
2徳 (豊かな人間性)	「みんなのきまり」を守っている児童の割合を90%以上とする。うち、◎を50%以上とする。	「みんなのきまり」を指導し、各学級で一か月の振り返りを行い、取組状況の確認と改善点の作成、次回目標を設定する。	A	3/4以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取り組んだ	A	守っている児童90%以上 ◎50%以上	B		B		みんなのきまりを守っている90.9%(とても40.5%、だいたい50.4%)である。 自動評価の在り方について、それぞれの学級で取り組んでいる。	振り返りシートの活用について全校で取り組ませる。また、結果について児童代表委員会での議題とし、改善策を策定し取り組ませる。	A	・通常級、特別支援学級の交流の件は、コロナ禍の特殊な社会情勢の中では「C」とならざるを得ないと思います。
			B	1/2以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取り組んだ	B	同80%以上 ◎40%以上								
			C	毎月児童評価を実施し、児童に活動を振り返らせた	C	同70%以上 ◎30%以上								
			D	児童評価が実施できないことがあった	D	同70%未満								
	いじめの早期発見、早期対応を図り、事案確認から1か月以内に解決する。	学校いじめ防止基本方針に則った取組を実施する。いじめ防止標語・ポスター作成、あいさつ運動などの児童活動を行い、いじめ防止を常に児童に意識付ける。	A	他教員と協同して100%対応した。常にいじめ防止を意識して取組んだ	A	1か月以内に全件解消	A		A		前期は99件をいじめと認知し、すべて1か月以内に解決している。現在4件が解消に向け見守りを継続中である。	取り組みを継続する。 いじめ発見に向け研修を継続し、教職員感覚をさらに高める。	A	・人を大切にすること、自分を大切にすることの中には、小さいころからの親との向き合い方がかかわると思います。親がしっかり子の心をみて向き合う大切さを分かっていると、今後思春期になっても、親も大切、友達も、そして自分も大切という心が育つと思います。
			B	アンケートや発生事案に100%対応した	B	2か月以内に全件解消								
			C	アンケートや発生事案に未対応があった	C	3か月以内に全件解消								
			D	計画の未実施があった	D	3か月以上の継続指導あり								
	自分を大切にする児童を90%以上、友達を大切に する児童を95%以上とする。	各児童の道徳振り返りシート等を用いて学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、適切な評価と指導を重ねることにより児童の自尊感情を高める。	A	振り返りシートを活用し、学習状況の把握と自尊感情を高める指導を実施した	A	自分90%以上、友達95%以上	B		B		自分を大切89.4%、友達を大切97.5%である。自分については、昨年度の中間評価と比較し、全体では同程度であるが、高学年が高くなり、中学年が下がっている。	数値が下がった中学年を重点として良さのフィードバックに取り組んでいく。道徳授業について、学年をチームとして改善を図る。	A	・子供たちが楽しそうに学校で生活していることが全てだと思います。 ・子供が学校で楽しくできるのは、本来、保護者あつてのこと。いかに学校で楽しくできるのかを考えるのは、サポートする立場を忘れないで学校教育を見てほしい。
			B	他教諭の授業を参観し、授業改善を図った	B	自分85%以上、友達80%以上								
			C	全時間において、道徳科の趣旨に基づいた授業を実施した	C	自分80%以上、友達75%以上								
			D	道徳科年間指導計画を確実に実施した	D	自分80%未満、友達75%未満								
	通常級・特別支援学級の交流が楽しいと感じる児童を80%以上とする。	学校生活支援シートの作成と情報共有、活用を図る。通常級と特別支援学級の交流活動を推進する。	A	交流活動をおとて共生の意識を感じさせることができた	A	交流が楽しい児童80%以上	C		D		学校が楽しい86.2%(とても45.0%、だいたい41.2%)である。交流が実施できていない状況ではあるが、ひまわりとの交流70.5%、他学年との交流79.7%が楽しみにしている。	交流が実施できていないため否定的評価を付けた児童もあり、数値は低くなっているが、楽しみにしている児童の思いを実現できるように交流方法を考えていく。	A	
			B	通常と特別支援学級の児童の交流を図った	B	交流が楽しい児童70%以上								
			C	特別な支援について、児童に発達段階に応じた理解をさせた	C	学校が楽しい児童90%以上								
			D	教育活動に合理的配慮を取り入れた	D	学校が楽しい児童80%以上								

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価						学校関係者による評価	
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
3 体 (健康・体力)	体を動かすことが楽しい児童の割合を90%以上とする。	体育学習の内容、方法やかかわりの工夫、体育朝会、年間2回設定した体力向上月間を実施する。	A	年間をとおして休み時間の遊びなど体を動かす取組の工夫を行った	A	体を動かすことが楽しい児童90%以上	B		A		体を動かすことが楽しい児童91.0%(とても72.3%、だいたい18.7%)である。あまりが5.6%(40人)、「ぜんぜん」が3.4%(24人)である。	評価の低い3,6年生への手立てを講じる。運動会を契機に、体育学習で友達とのかかわりを増やしていく工夫をする。	A	・「相談」という重い言葉ではなく、「誰かに話してみる」というようなハードルを下げる言葉を使っていくのもよいかもしれません。また、話す相手は誰でもよいことをより強調し、子どもたちが相手を選べるということを認識できるとよいと思います。 ・コロナ禍でも体力が高いのはすばらしいと感じます。 ・全ての子供たちが運動会を笑顔で参加していたのが良かったです。 ・正門前の通学路について、狭いのに双方向通行で車両数も多く危険が生じている。なんとか対策はできないものか。
			B	運動に親しむための授業改善に取組んだ	B	同85%以上								
			C	体育学習における児童同士のかかわり方を工夫した	C	同75%以上								
			D	体力向上月間の取組を推進した	D	同75%未満								
	健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。	校内委員会やタ会において児童の情報を共有し、適切かつ効果的な指導を全教職員で行う。心と体の関係についての体験的学習を全学年で実施する。	A	他教員と協同し、児童への適切で効果的な指導・支援に取組んだ	A	健康に元気に過ごしている児童90%以上	B		A		健康に気を付けて元気に過ごしている児童92.2%である。新型コロナウイルス感染症への対策としての取り組みが、児童の意識を高める一因と考えられる。	心と体の関係についての体験的学習について、継続して全学年で実施していく。	A	
			B	児童への適切で効果的な指導・支援に取組んだ	B	同80%以上								
			C	健康についてに実態に応じた指導を行った	C	同70%以上								
			D	心と体を一体としてとらえた学習を行った	D	同70%未満								
	学年に応じたSOSの出し方を理解し、だれかに相談できる児童の割合を90%以上とする。	発達段階に応じたSOSの出し方について具体的に指導する。特に、年度始め、長期休業日前は重点的に行う。教員はSOSを敏感に受け止める感覚を養う。	A	重点時期に確実に指導した	A	だれかに相談できる児童90%以上	B		D		相談できる72.8%(とても38.8%、だいたい34.0%)である。学年ではなく、学級によって差が生じている。教員の統一した指導を徹底する必要がある。	引き続きSOSの出し方教育を行うとともに家庭への啓蒙を図る。また、相談について具体的な方法をロールプレイ等をおして理解させていく。	A	
			B	研修・研鑽を重ねてSOSを敏感に受けとめる感覚を身に付けた	B	SOSを受けとめる感覚が向上した(教員)								
			C	具体的なSOSの出し方を指導した	C	だれかに相談できる児童75%以上								
			D	適切に指導できなかった	D	だれかに相談できる児童75%未満								
	安全に気を付けて生活している児童の割合を90%以上、自転車安全利用五則遵守を95%とする。	安全指導計画に則った指導を確実に実施する。	A	安全について、年間を継続して意識をもって児童に適切に指導した	A	安全に気を付けて生活している児童90%以上、自転車安全95%以上	A		B		安全94.8%、自転車90.3%である。自転車の乗り方については、警察からの事故情報を参考・活用しながら適宜指導を重ねている。	11月からは、PTAとの連携を強化し家庭への啓蒙を図り、学校と家庭で一緒に取り組む。また、登下校の安全については、年間をとおして繰り返し指導を重ねる。	A	
			B	学年で共有化した指導を行った	B	同85%以上、同90%以上								
			C	学校安全計画に基づく指導をほぼ100%実施	C	同80%以上、同85%以上								
			D	学校安全計画に基づく指導ができなかった	D	同80%未満、同85%未満								
4 働 き 方	区の条例施行規則を遵守し、時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間を目標とする。	校務分掌組織を改編し分掌の改善を図る。庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図る。	A	月45時間以下が10か月以上、年間では360時間以下	A	ライブ・ワークバランスに改善があったと感じる教職員が80%以上	B		C		4~9月集計、月45時間以上の時間外勤務は、のべ227人中76人(4月21人、5月12人、6月16人、7月11人、8月0人、9月16人)である。	特定の教職員が多いことから、働き方についてデータをもとに話し合って改善していく。	A	
			B	月45時間以下が8か月以上、年間では360時間以下	B	同75%以上								
			C	月45時間以下が6か月以上、年間では360時間以下	C	同50%以上								
			D	月45時間以下が4か月以上、年間では360時間以上	D	同50%未満								
5 連 携	(自己肯定感)自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を75%以上とする。	児童をよく見て気付き、児童によさを伝えるとともに、保護者・地域を啓蒙し連携・協力していく。	A	家庭と連携して取り組んだ	A	児童の肯定的評価75%以上	B		A		児童評価80.6%(とても36.5%、だいたい44.1%)である。(低87.1%、中83.7%、高69.4%)これまでの日本での調査結果(13歳以上対象)約45%と比較し、とても高いと言える。	否定的回答が多い高学年(特に6年生34.4%)について、日常の声かけを今一度見直して、学年と専科でチームとして行動していく。	A	・自己肯定感は、乳幼児期からしっかり育てるようにしていきます。 ・学校が保護者・地域へ情報を積極的に出しているため環境が整っていると思います。 ・自己肯定感は高ければ高いほどよい。残念ながら自殺のニュースを聞くにつれ低年齢化が懸念される。
			B	よさを児童に十分インプットした	B	児童の肯定的評価60%以上								
			C	よさを児童にインプットした	C	児童の肯定的評価45%以上								
			D	児童のよさを見出す力を向上させた	D	児童の肯定的評価45%未満								
	数学・算数、英語・外国語について、学力を向上させる取組を構築する。	抽出生徒・児童の学力調査の分析及び相互の授業観察等から、学力向上に係る具体的な方策を立て実施する。	A	習熟度に応じた学力向上の手立てを立てて実施、検証、改善した	A	2教科で有効な方策を見出した	B		C		学習アプリMonoxerの活用により特に低位層の学力向上が図られた。	今後は連携3校で方策の共有や改善を行っていく。	A	
			B	授業改善プランの実施状況と効果を検証した	B	1教科で有効な方策を見出した								
			C	学力調査結果を基に授業改善プランを改善した	C	小中連携して実施した								
			D	小中の教員の交換授業等により指導方法の改善を図った	D	有効な方策は見出せなかった								

＊学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある